

本

あち 議会だより

令和8年(2026年)

第127号

7月17日発行



中関大杉クラブ

6月定例会

- | | |
|--------------------------|---------|
| ★ 4月臨時会報告 | 2 ページ |
| ★ 6月定例会報告 | 2 ページ～ |
| ★ 各委員会報告 | 5 ページ～ |
| ★ 一般質問（7議員） | 8 ページ～ |
| ★ 議会改革としての新たな挑戦 | 12 ページ |
| ★ 国際研究者による
野生動物対策調査実施 | 13 ページ～ |
| ★ 用語解説 | 15 ページ |
| ★ 国際研究者から見た阿智村の魅力 | 16 ページ |

令和8年4月 臨時会報告

4月10日に令和8年第2回臨時会を開会しました。

pick up

令和7年度阿智村一般会計補正予算(第9号)

★U・Jターン就業・創業移住支援事業(県補助金)が120万円の減額となり、村の負担となる補正について。

主な質疑

Q 県の補助金が村の負担となった経過は。

A 事業実績報告が県の定める期限までに間に合わなかったことによる減額補正です。

Q 再発防止策は。

A 補助金の全体的なスケジュールを表にし、全庁で互いに確認しながら対応できるシステムを作成中です。

Q 財政的な影響が生じた時点

で議会へ報告することが本来の在り方。この事案は3月定例会会期中に起きたが報告がなかった。今後の考え方は。

A 今後、万一財政的に影響のある場合は速やかに議会へ情報提供を行うよう努めます。

意見 業務全体の見直しや、合理的で実現可能な再発防止策を考えていただき、それによる業務の複雑化とならないようにしていただきたい。

採決

全員賛成で可決

pick up

阿智村副村長の選任に関する同意

主な討論

賛成

池内さんは元県職員というところで行政経験もあり、阿智村はわい・Wai公園整備やリニア関連工事、七久里開発など大きな事業が多く控え、阿智村の将来のためにも重要な時期。豊富な行政経験を活かして、村の大切な事業にしっかりと取り

組んでいただきたいと期待する。

pick up

損害賠償の額を定めることについて

集会所にて、村の委託した業者が公用車で後退した際、後方に駐車していた相手車と接触し損傷を与えたものです。
(賠償額…23万5927円)

Q 再発防止策は。

A 安全確認や後方確認の徹底を委託先にきちんと指導し、併せて職員にも注意を徹底します。

令和8年6月 定例会報告

6月定例会は6月4日から19日までの16日間の日程で開会しました。

pick up

令和8年度阿智村一般会計補正予算(第1号)

主な討論

賛成

この補正予算は阿智村の将来を担う内容が多く含まれている。過去最大の予算規模である約84億円から+1億円ほどの補正であるが、リニア中央新幹線のトンネル掘削工事が始まり、大型事業のスタートが現実味を帯びてきた。具体的にリニア工事発生土仮置き場の詳細設計や観光の二次交通支援の負担金など評価する。村のしっかりとした住民説明や解決策の適正・迅速化や健全で確実な財政計画等をお願いし、議会との★二元代表制を真摯に受け止めていただきたい。阿智村が持続可能な行



政運営に取り組みられることを要望する。

採決 全員賛成で可決



pick up

阿智村国民健康保険税 条例の一部を改正する 条例の制定

国が行う★こども未来戦略・加速化プランの子育て支援の拡充に充てるための財源確保の一部として関係法令が整備されたこと等による村の税条例の改正です。

主な討論

賛成 他の自治体では★国民健康保険税を引き上げているところもあるが、阿智村は税率を現行のまま据え置くこととしている。国民健康保険事業の安定的な運営が重要であり、県が示す★標準保険料率の引き上げという考え方もある。しかし、令和8年度の収支見込みは現行税率

のままでも黒字となる見通しであり、基金残高も勘案した上での判断。また、本年度から子ども・子育て支援分が導入され、被保険者の負担は増加し、物価高の影響もある中で村民の暮らしに配慮したバランスの取れた判断であると評価する。

採決 全員賛成で可決



pick up

令和8年度清内路定住促進住宅建設工事(単身用) 請負契約の締結

Q 同地区の世帯用住宅より坪単価が1割以上高くなっている。契約金額や落札率の妥当性は。

A 設計書について随時内容を見直し、最新の単価等により設計をしています。入札についても村の財務規則により参加入札業者による2回の入札、それでも落札されなければ2回目の落札で最低価格の札を入れた業者から2回まで見積りを取り入札

を行っています。今回は最低価格の札を入れた業者からの再度の見積りで決定し、落札率は99.89%です。

Q 今後設計変更に伴う増額補正などはないか。

A 一般的に契約の中にはスライド条項が盛り込まれています。何らかの物価水準や賃金水準の上昇などにより契約金額に変更がある場合、業者からの申し出で協議し変更できるという中で契約しています。現時点では確実なことは言えませんが、値上がりに対する業者からの相談については村も丁寧に扱っていく考えです。

Q 入居見込みや問い合わせなどはいかがか。

A 募集を始めてみないとわかりませんが、当初より単身用の要望が多くありました。入居は来春以降になります。

採決 全員賛成で可決



pick up

広域二次交通の充実に 関する事務の委託

観光客の広域二次交通構築の実証実験のため飯田市―阿智村―中津川市(馬籠宿)を結ぶバスの運行の事務委託を飯田市と結ぶ内容です。

Q 3年間の実証実験中の金額の変更はあるのか。

A 本年度は9月からを予定しているため7か月分の負担金となっています。ただし、金額も飯田市との協議で決定するため変更することはあります。

Q インバウンドが増えてくる中、看板の出し方や外国語版のパンフレット作成などの考えはあるか。

A 現時点で馬籠宿には外国人観光客が多く、そこそ南信州を繋げる目的のため飯田市とも協力しながら観光局でも考えています。

意見 この実証実験を通し大きな成果を上げていただき、阿智村の観光事業が更に発展するよう期待している。

今月の表紙 シリーズ『ひと+活動+想い』

【中関大杉クラブ】

会長 原 英行

中関大杉クラブの会員数は、男性28名女性28名の合計56名で活動しており、自治会主催による地域内の観音様・お釈迦様・津島様の祭典を執り行っております。社会部の活動は年間を通して、大杉花壇・阿智高校信号機下のサツキ園・中関高齢者生きがいセンター周辺の庭木の水やり・除草作業・補植作業を行っており、シニアクラブによる花壇審査では令和7年度も最高点の評価をいただきました。

体育部では6月と11月にマレットゴルフ大会・室内スポーツ大会、2月には冬季室内スポーツ大会を開催しております。

年末には、中関育成会の子どもたちとの交流を持ちながら正月飾りの作り方の指導をし、中関高齢者生きがいセンター正月飾り・中関大杉へのしめ縄を制作し飾り付けをしております。

活動を通じて会員間の関りを深めて、若い世代と手を携えて人間性豊かで活力に満ちた、家庭づくり地域づくりに励んでおります。只今会員勧誘中です。



上程された案件の議決結果

人 事	阿智村副村長の選任に関する同意	同 意
	阿智村農業委員会委員の任命に関する同意（14名分）	同 意
条 例	阿智村税条例の一部を改正する条例の制定★(専決)	同 意
	阿智村介護保険条例の一部を改正する条例の制定（専決）	同 意
	戦時中ポスター貸付条例の制定	可 決
	例規の総点検による関連条例の一部を改正する条例の制定	可 決
	阿智村監査委員条例の一部を改正する条例の制定	可 決
	阿智村福祉医療費支給条例の一部を改正する条例の制定	可 決
	阿智村下水道条例の一部を改正する条例の制定	可 決
	阿智村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定	可 決
財 産	阿智村村道路線の廃止	可 決
	阿智村村道路線の認定	可 決
契約・委託	令和8年度清内路発生土置き場（市場2工区）造成工事請負契約の締結	可 決
	令和8年度清内路発生土置き場（丸山）造成工事請負契約の締結	可 決
	令和8年度清内路定住促進住宅建設工事（単身用）請負契約の締結	可 決
	広域二次交通の充実に関する事務の委託	可 決
指定管理	熊谷元一写真美術館の指定管理者の指定	可 決
補正予算	令和7年度阿智村一般会計補正予算（第9号）（専決）	同 意
	令和8年度阿智村一般会計補正予算（第1号）	可 決
繰越明許	令和7年度阿智村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告	—
賠 償	損害賠償の額を定めることについて（専決）	—

議員発議案件の決議結果

意 見 書	「さらなる少人数学級推進と教職員定数改善のための教育予算確保」と「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書の提出について	採 択
-------	---	-----

文章中の★の付いた用語は、15 ページの用語解説「おしえて！セイクン！（仮）」で解説しています。参考に読んでみてください！



戦時中ポスターの活用ルールを整備 元一写真童画館の魅力向上へ ★指定管理者を指定

総務常任委員会では、付託された条例制定議案、指定管理者の指定、補正予算及び請願について審査を行いました。

戦時中ポスター貸付条例の制定

戦時中ポスターの貸付に関するルールを定め、資料の適正な管理と活用を図るための条例です。

Q 資料はどのように活用されているのか。



A 出版物や新聞、書籍、大学入学共通テストなどに活用されます。令和7年度は73件の貸付実績がありました。

委員会では、貴重な資料を適切に保存しながら活用していくため、貸付条件や原資料の保護

対策について確認しました。

また、条例や規則の内容が利用者に分かりやすいものとなるよう求めました。

例規の総点検による関連条例の一部改正

例規集の総点検結果を反映し、上位法改正による修正漏れ等を整備するための条例改正です。

Q 条例点検はどのように行われているのか。

A システムで形式や整合性を確認し、法改正への対応は職員が確認しています。

委員会では、今後も定期的な点検を行い、AIなど新たな技術の活用も研究しながら、適正な例規管理に努めるよう求めました。

熊谷元一写真童画館の指定管理者の指定

熊谷元一写真童画館の指定管理者を一般社団法人全村博物館協会とするものです。

Q どのような効果を期待するのか。

A 情報発信の強化や他施設との連携により、施設の魅力向上と来館者増加を期待しています。

委員会では、導入初年度であることから、運営状況を丁寧に把握するとともに、透明性のある運営と継続的なフォローを求めました。

令和8年度一般会計補正予算(第1号)

国県補助金等の確定に伴う補正予算です。

Q 移住定住プロモーション事業の目的は何か。

A 婚活支援や地域創生、阿智村の魅力発信につなげるための事業です。

委員会では事業の効果や継続性について確認するとともに、中学校体育館への空調設備整備を求める意見が出されました。

教育予算確保等を求める★請願

少人数学級の推進や教職員定数改善、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める請願について審査し、全員賛成で採択しました。

いずれの議案も慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。今後も住民福祉の向上と行政運営の適正化に向け、引き続き審査・提言に努めてまいります。



産業建設常任委員会



阿智村の農業振興、農地保全を担う 農業委員会委員が、新たに任命されました

阿智村農業委員会委員の任命に
関する同意

阿智村農業委員会委員の改選が行われ、新しい14名の任命に関する同意がされ、決定いたしました。任期は3年間です。阿智村の農業振興、遊休農地対策、農業地域計画などを担っていただきます。

令和8年度阿智村一般会計補正
予算(第1号)

※農業費 52万5千円
新規就農者育成事業、国の制度変更による増額分

※林業費 547万4千円
松枯れ伐採駆除事業、県配分の増額

Q 県の予算が、大きく増えたのか。

A 年々減少していましたが、今年度は県の予算が要望に近い形で付いたため、増額しました。

※定住促進費 489万7千円

Q 駒場地区(賃貸住宅支援金)で1棟10戸の補助上限1000万円であったが、そこまで達しなかったのか。

A 総工事費のうち補助対象経費が上限に達しませんでした。

※まちづくり整備費 6000万円

七久里開発事業に伴う、リニア工事発生土の確保と、運搬車両を平準化し工事を安全かつ円滑に行うため、発生土の仮置き場を市の沢地区に設置する。

Q 七久里開発では発生土の活用を、1000万㎡と予定されているが、J R東海との交渉で増えてくる可能性があるのか。

A 仮置き場の設計の進み具合で、J R東海と調整してまいります。七久里で活用する土の確保はできています。

Q 仮置き場造成工事について、J R東海との費用負担の関係は。

A 大枠ですが、詳細設計、工事費はJ R東海でと、話を進めています。用地費については協議中です。

Q 工事期間は5年となっているが、地権者のご理解を頂いた上で、地元、地域の皆さんへの騒音、ホコリ対策など、説明は。

A 近隣住民、地元の皆さんには今後、わかり易い説明を、丁寧にして参ります。

※商工費 324万5千円

★広域二次交通(飯田市―阿智村―中津川市)の充実に関する事務を、飯田市に委託する。

Q 3年間の実証実験の判断は。

A 明確な基準はありませんが、進める中での判断になります。



清内路定住促進住宅建設工事
(単身用) 請負契約の締結

一 契約金額 9988万円

二 契約者

飯田市 吉川建設

建設中の清内路単身用住宅の様子



萩の平トンネル掘削にむけて



令和8年度清内路発生土置き場
造成工事の請負契約の締結

2件あり、それぞれの内容と
委員会での質疑を報告します。
なお、本件は即決案件であり、
質疑は定例会開会前に行われた
委員会のものです。

のくらいか。
A 入札は12社で落札率は98・
6％です。

その他、入札に参加できる企
業の条件などを確認しました。
この案件は本会議初日におい
て異議なく認められました。

(1) 市場2工区

契約金額 3億7290万円
契約者 吉川・阿智特定建設
工事共同体

Q 入札は何社で落札率ほどの
くらいか。

A 5社で、★落札率は98・9％
です。内訳は単独企業が1社、
共同企業体が4社です。

(2) 丸山

契約金額 6050万円
契約者 共歩株式会社

Q 入札は何社で、落札率はど



安全祈願祭の様子

発生土置き場「坊主ヶ島」につ
いて

リニア特別委員会では、6月
12日の会議において、6月11日
に行われた住民説明会での説明
内容と質疑の内容、確認事項に
ついて報告を受けました。

住民説明会ではJR東海から
の説明のあと、阿智村が設計の
安全確認をお願いしている岐阜
大学の沢田和秀先生（工学部
地盤防災の専門家 当日はWeb
参加）から住民側の理解を深め
るための追加の説明を求められ
JR東海がそれに答える場面が
ありました。盛り土の安全性向
上のための設計、工事完了後の
恒久的維持管理とその在り方、
異常時対応についての説明など
がそれにあたり、参加した住民
の皆さんの理解が深まったとの
ことでした。

この後、6月25日にリニア対
策委員会が持たれ、示された設
計で「坊主ヶ島」の工事を受け
入れるかの協議がされました。
その後なるべく早期に議会もリ
ニア特別委員会を持ち、本件に
ついての判断をする見通しとな
っています。



住民説明会の様子

国道を利用した発生土運搬の状
況（5月）

合計2,316台の通行があ
ったとのこと。そのうち212
台は中津川インターが利用でき
ないため園原インターを利用す
るために通行したものです。1
日あたり最大量は5月21日の2
74台でした。この中に重金属
類等を含む★要対策土は含まれ
ていません。なお、資機材運搬
車両は660台でした。（台数
はすべて往復分です）
住民からの苦情などは0件で
した。

政策検討委員会

政策提言に向けて

人口問題「選ばれる阿智村」分科会

リーダー

大嶋正男

サブリーダー

櫻井芳一

委員

吉田哲也

田中真美

小林義勝

当分科会では、5月17日に浪合「駄菓子菓子」を会場にミーティングを行いました。

参加者からは、人口の増減だけでなく「一人ひとりの生活の質や幸福度に重点を置くべき」との声や、より分かりやすい文書表現への工夫を求める意見をいただきました。また、移住直後の不安を解消する「伴走型支援制度」の必要性や、移住者同士が相談できる「横のコミュニティ」の構築といった、実体験に基づく具体的な提案もありました。

これらを参考に提言書をブラッシュアップし、住民の思いを反映した実効性の高い最終案づくりに取り組めます。

「農業及び産業振興」分科会

リーダー

熊谷智徳

サブリーダー

遠山広志

委員

熊谷恒雄 井原敏喜

吉村金利

唐澤浩平 實原恒禎

●A班

3月と4月に浪合トウモロコシ農家、産業振興公社と三者で懇談を行いました。浪合ブランドのトウモロコシは地域を支える貴重な資源ですが、高齢化対策や後継者育成が急務です。公社からは「全村的に限界が近づいており、農家目線での大胆な改革が必要」との指摘もあり、直売やネット販売を中心に更なるブランド化に向けた支援の重要性を確認しました。

●B班

ジビエ加工施設の完成を受け、捕獲後1時間以内に処理した高品質な鹿肉を「阿智スタンダード」とし、信州ジビエ認証の取得や加工品・ペットフード開発、レザー商品の活用など、鹿を余すことなく生かす「全量活用型モデル」の構築と観光連携について提言したいと考えています。

今後は、9月の最終提言に向けてまとめと準備を進めます。

子どもたちのスポーツ・文化活動の推進について

子どもたちの支援は未来への投資 地域全体で支える

櫻井芳一



問 子どもたちのスポーツ・文化活動の教育的意義をどのように考えるか。

実原教育次長 体力や技能の向上、文化的感性の醸成に加え、異年齢の仲間や指導者との交流を通じて社会性や協調性を育む重要な機会です。目標に向かって努力し、挫折や達成感を経験することは、忍耐力や集中力を育み、自己肯定感の向上にもつながります。また、生涯にわたって主体的に学び続ける力の基盤となるほか、地域への愛着や地域文化の継承・発展にも貢献します。学校教育と地域活動が相互に補完し合いながら、豊かな人間性と生きる力を育成することが重要です。

また、こうした活動は学校だけでは得られない多様な体験の機会となり、将来にわたって豊かな人生を送るための土台づくりにもつながると考えます。

問 子どもたちの活動を支えるため、現在どのような支援を行っているか。また、今後の考え方は。

熊谷総務課長 体育施設や公民館等の無償利用、スポーツクラブへの補助金交付、部活動の地域移行支援、活動情報の周知、施設予約システムの導入などを行っています。これらの支援は近隣市町村と比較しても充実した内容となっています。今後も現在の支援水準を維持しながら、子どもたちがスポーツ・文化活動に親しめる環境づくりを進めていきます。

問 今後の支援の方向性は。

村長 活動場所の確保など運用面の課題については現場の声を聞きながら改善を図ります。子どもへの支援は未来への投資であり、スポーツ・文化活動は地域コミュニティの維持や人材育成にもつながる重要な取り組みと考えます。学校統合や地域クラブ化、広域的な連携も見据えながら、地域全体で子どもたちを育てる体制づくりを進めていきます。

持続可能な阿智村の農業について

いろいろな農業団体と連携をとり意見を聞きながらやっていきたい

大嶋 正男



問 10年後の阿智村農業という観点で、作成されている地区計画をどのように捉えているのか。

小松建設農林課長 農業者の高齢化や担い手不足が進む中で誰がどの地域か、どの農地を誰がどう使って農業を進めて行くか明確化したものです。

各地域とも将来的な担い手、受け手が未定な農地も多く、農業委員会や関係機関と連携し農家へのヒアリングや話し合いを重ね、新たな担い手の確保や集約化に取り組んでいきたいと考えています。

問 地区計画を作成する中で総戸数が9戸以下の集落が存在するのか現状は。

建設農林課長 集落単位で見ると9戸を下まわる、或

いはそれに迫る集落もあり集落活動の実施率の急激な低下が懸念されます。阿智村は集落単位で問題を解決するのではなく自治会単位8地域で策定されています。

問 6次化産業、特産品のブランド化について今年度阿智村はワイン特区として認められた。ワイン加工や特産品、取り組みを進めていく中で、そのための「起業」支援地域作りへつながる拠点作りについて村長の考えは。

村長 6次産業化、特産品村のブランド化「阿智村星空ワイン特区」として認定され小規模事業者でも参入しやすくなりワイナリー設立、民間企業の参入も一つのきっかけになると考えます。拠点施設が建物になるのかどうかという事もありますが、村には完熟堆肥「あち有機いきいき」もありブランド化にはなっています。産業振興公社、JA、阿智昼神観光局等と連携して農業発展のためしっかりとやっていきます。

補助金の期限不遵守事案に対する再発防止策について

真の原因究明に基づく再発防止策と実効性について

原因究明に向け、内容の深堀等再度検討行います。
また成果を持って住民の信頼回復を図ります

小林 義勝



「UIJTアーン就業・創業移住支援金事業」で移住者へ県・村各々2分の1支援金が支払われる事業に対し、期限不遵守により県からの補助金が不交付となり一般財源による負担となりました。

問 期限不遵守となった①経過・金額②組織としての発生原因は。

菱田協働活動推進課長 ①申請者一世帯分、県補助金150万円が県の交付要綱期限に提出が間に合わなかったため不交付となりました②組織として、日々の業務が担当者任せであり、補助業務内容が共有できていなかったです。

問 ヒューマンエラーは誰にでも起こりえる。エラーを防ぐために組織・管理監督が必要であり、再発させないためにも真の原因究明、

究明に基づく再発防止策が必要。なぜそうなったのかを確認、深堀するなど再度検討する考え有無は。

協働活動推進課長 原因究明・再発防止策については再度検討します。

問 自治体に財政的損失が発生したことに対し、執行部としての責任所在は。全庁内での再発防止策対応状況は。

熊谷総務課長 発生事案を重く受け止め、「補助事業管理台帳」の整備を行い、申請・支払い期限の一元管理、チェック体制強化等を実施、再発防止を行います。
問 庁内改善策の運用・運用管理責任者は。

副村長 防止策について実効性のある運用に取り組みます。①進捗管理、内容の意識付け、横の連携等により漏れ防止を図ります。②長期対策として、事務処理能力の向上を目指します。

問 村民の信頼回復に向けた決意は。

村長 発生事案を真摯に受け止め、責任、公金を扱う使命への自覚を持ち、成果での信頼回復を図ります。

・阿智村における無歯科医の現状と解消のために

歯科医師会からを待つだけではなく、他の策で歯科医開業の誘致も考えている

・阿智村観光地区の道路整備と国、県への要望について

花桃の里周辺道路、園原インター線、園原ICフル化とも総合的課題の検討から始める

吉村金利



問 村内に歯科医は必要と考えるか。

千葉民生課長 歯科医は必要だと考えます。歯科医院開設の実現は容易ではないが、歯科医療関係機関と連携し対応を検討します。

問 現状は無歯科医の村だが村はこの状況を解消するための誘致策はどう考えているか。

村長 歯科医師会に依頼をしております。阿智村に歯科医が無くなり2年が経過し村民の方々が不便を感じていることは理解していますので、歯科医が開業するだけ待っているだけでは遅いと思っており、他の策で開業医をお願いしてもいます。歯科医があることは村民にとって大事なことです。歯科医師会への依頼と同時に次の策を考え無歯科医村の解消に務めます。

問 現在の観光に関する村全体の道路状況をどう捉えているか。

小松建設農林課長 観光地道路網は概ね確保されているところですが、必ずしも円滑な道路環境が整備されているとは言えません。

問 花桃の里の県道富士見台公園線の幅員や村管理車回転所の改良工事をすべき。

建設農林課長 県道は現地踏査する中で道路管理者の県へ要望をしております。回転場は路面が荒れており現地確認し担当課と対応します。

問 園原インター線の維持管理、大規模伐採の予定は。

建設農林課長 一番の課題は立木の大規模伐採です。これまで同様に県への要望を着実にしています。

問 中央道園原ICのフル規格化についての具体的な行動は。

村長 今後の行動として花桃の里、園原インター線も含めて、急峻な地形での設計、観光地の交通量、経済効果等の課題を総合的に考えクリア後にしっかり考えたい。

家庭の孤立防止へ 行政で抱え込まず、地域の力を活かしていくべきではないか

昔からの助け合える土壌を活かし
支援のマッチング等、DX化を検討していきます

阿智村こども計画



田中真美



問 今年5月、当村で発生した痛ましい事件に胸を痛めています。同じ子育て期を乗り越えてきた同士として、深い苦しみに気づけなかった無力さを抱え、二度とこのような孤立を生まない決意で質問を行います。

今年3月策定の「阿智村こども計画」の若者アンケートでは、若者の約4割が将来に希望を持ってないと回答し、村政に意見が反映されていないと感じる人が7割を超えている。高校生や若者に対する支援の事業計画が十分とはいえないのではないかと。また、開設から2年を経過した「こども家庭センター」は相談件数増などの成果を上げているが、複雑化する課題に対し、職員の責任感から業務や情報を内部に「抱え込んで」いないか。密室化する家庭の異変を役場のマンパワーだ

けで察知するのは不可能だ。保健師や民生児童委員、地域住民の「地域の目」を活かしていく必要性を感じる。社協で実施している「あちの手」事業等と連携して支援が必要な人と支援できる人をアプリ等で繋ぐ「DX化」を進めるなど、役場だけで抱え込まずに地域を信頼して頼るべきではないか。村全体が本物の「阿智家族」となるための見解を伺う。

村長 「阿智家族」は、地域みんなで子どもを育て、村民が悩みを分かち合うことを考えて掲げた言葉です。行政だけではできないことが山ほどあり、地域全体で相談に乗る体制が必要だと考えています。幸い阿智村には、困った人がいたら助け合える土壌が昔からあります。議員提案の「DX化による支援のマッチングの仕組み」は非常に心に刺さりましたので、今後うまく構築できるようにしっかり検討したいと思えます。PR不足なども見直し、誰ひとり孤立させない阿智村へ突き進んでまいりたいと思います。

今後単身者用住宅としてトレーラーハウスの活用を考えたらどうか トレーラーで運搬し組み立てるユニットハウスは一つの可能性として考えています 第二小学校周辺地域をコミュニティシティとする計画をどう思う？ 面白い計画であり今後いろいろなプランを検討していきたいと思います

實原恒禎



問 令和6年度に社会人口が大幅に増えた要因をどう考えるか。

菱田協働活動推進課長 要因は一つにとどまらず複合的な観点からの結果と捉えています。社会的な要因としては、近年村内企業が海外の技能実習生等の受け入れ数を増やしていることが考えられます。また、毎年三大都市圏で開催されるイベントに年間10回程参加しているのも要因の一つと言えます。そういった「阿智村の賑わい」と、あの手この手の移住施策の積み重ねがあつてか昨年度末には「Uターンしたい街ランキング2025全国版」で第1位を獲得させていただいたところが記憶に新しいところですが、令和7年度の社会増減の数値を見てもわかるように、タイミングもあります。今後も一喜

一憂せず、真摯に向き合っていく必要があります。
問 今後の単身者用住宅を考える上で★トレーラーハウスの活用をどう考えるか。
協働活動推進課長 世間一般に言われるトレーラーハウス「移動可能な家」については具体的な検討に至っていないのが現状です。しかし、トレーラーで運搬し組み立てる住宅「ユニットハウス」については視察、検討を進めており、村営住宅の一つの可能性として考えているところです。
問 伍和公民館の移設や第二小学校の後利用を含めて、あの地区を伍和地区の「核」となる区域と捉え、★コミュニティシティ構想のようなものが必要と思うが村長の考えは。
村長 子どもたちの声が聞こえる高齢者住宅があると聞いたことがあります。5年後に予定している義務教育学校の開校にあたり、各地域の小学校の後利用も考えていく必要があります。議員提案の計画は面白い計画であり、今後に向けて色々なプランを検討していきたいと思っています。

6月1日から導入された「宿泊税」、村民、観光客、観光事業者に納得感と期待感が得られる、村の考え方、進め方は使いみちの透明性を心がけて、前向きに進められるような宿泊税にしたい

熊谷智徳



問 宿泊税の仕組みは。

井原出納室長 6千円以上の宿泊に対して、村が200円、県が100円、計300円を宿泊代に上乗せで支払います。別途入湯税150円もかかります。年間の村の税収は宿泊税5500万円、入湯税は3700万円です。

問 行政、事業者の課題は。

熊谷商工観光課長 事業者の事務負担はありますので、行政としてできる支援はして参ります。旅行者、村民の皆さんへの理解、説明は納得感を得られるよう丁寧にしていきます。今までに、苦情等はありません。

問 宿泊税の使いみちは。

井原リニアまちづくり課長 昼神温泉リニア新時代構想では、持続可能な観光地経営のために、周遊、滞在環境、観光客の利便性の向上、また拠点整備、広場、歩道、駐車場、河川の景観

整備など、観光局と連携しながら進めていきます。

商工観光課長 観光インフラ、二次交通の整備では直行バス、シャトルバスなどがあります。今年度飯田市が、県の宿泊税を使って天竜峡、昼神温泉、馬籠宿を経由で中津川市まで往復する計画を3年間の実証実験する予定で阿智村でもこの計画に関わり、結果が出れば宿泊税を使つての継続も考えられています。プランディング、プロモーション関係では、阿智村の歴史、文化、自然環境など独自性、差別化するために使い、SNSを利用した着地型の観光、地域全体の価値向上を目指します。

問 地域全体が潤う「点」から「面」へ、いかに高付加価値化するのか、宿泊税導入に当たり村長のお考えは。

村長 観光を基幹産業として選び、進んできた阿智村です。宿泊税をしつかり活用して、大きな課題である二次交通の強化、昼間の観光コンテンツの充実など、「リニア新時代」を見据え、阿智村の未来に前向きに進められる宿泊税にします。

議会改革としての新たな挑戦



阿智村議会是一年間を通して、住みよい村になるための様々な課題を調査、協議、審査、審議をして団体意思『阿智村の意思を決定』し、未来への基盤づくりをしています。

4月・7月・10月・1月の議会

①「現場視察研修・学習会」

議会全員協議会にて、村内事業所の現場視察を重点に、懇談・学習会・研究会などを行う。その中から、全議員で根拠を明らかにした熟議を重ね、目の前の村民の現実を正しく把握し、時代に合った思考と未来を見据えた想像力のある議会をめざします。

5月・8月・11月・2月の議会

②「議会委員会にて審査」

総務常任委員会・産業建設常任委員会・リニア特別委員会で事業計画や行政からの議案の説明を受け、詳細にわたって協議及び審査を行い委員会としての賛否の結論を出します。その後、全員協議会で情報の共有と意見の調整を行います。

① 視察と研修による熟議

② 詳細にわたる議案を委員会でも審査

③ 『阿智村の意思を決定する』本会議審議

3月・6月・9月・12月の議会〈定例会〉

③「阿智村議会最高議決機関⇒定例会本会議にて審議」

阿智村としての条例制定・予算決定・決算認定・財産の取得と処分・契約の締結・各種事業や総合計画の策定等は、委員会での審査を経て、本会議での審議で可決されると『阿智村の意思として決定』し、阿智村の今と未来に向けて事業が実施されていきます。

①全員協議会で研修と熟議 ⇒ ②各委員会で審査 ⇒ ③本会議で審議

①②③それぞれの月の役割を明確にし、質の高い議会運営をします。

議会改革の一つとして今年度は、4月・7月・10月・1月の議会は、全員協議会の枠を拡大し、現場視察研修の充実を図ることを試んでいます。

今までも村内の現場視察や各事業者との懇談などは、各委員会で活発に行っていました。現在阿智村には、全議員で現場に出て理解を深めなければならぬ重要な施策や課題、大型事業の計画等が待ったなしで迫っています。

今年度、議会は年間を通して、村の様々な状況について現場へ足を運んで、自分の目で見て直接対話を通して最善の方向を検討することを目指しています。

7月には、清内路リニア関連工事現場をはじめ、福祉施設3か所、農業関連施設3か所、西部衛生組合（くりーんひろ西部）などの視察研修を行います。

（熊谷 恒雄）

世界が注目する

阿智村の自然と共生の知恵

国際研究者による野生動物対策調査を実施

「阿智村で研究したい」

一通のメールから始まった

令和8年3月、東京農工大学農学研究院准教授の宮下絵夢フエリチタス博士から、熊谷村長あてに一通のメールが届きました。

宮下博士は、「野生動物と人間の軋轢（あつれき）および共存」を研究テーマとしており、「日本で最初の研究地域として阿智村で研究したい」と協力を依頼されました。

博士はメールの中で、阿智村について「自然を観光資源として重視し、地域ぐるみで野生動物対策に取り組む全国でも先進的な地域」と評価しています。

こうして5月18日から22日までの5日間、国際共同研究の第一歩となる現地調査が行われま

した。

なお、「軋轢」は研究分野で使われる専門用語ですが、今回の意見交換の中では人と動物の関係と考えた別の言葉がよいのではとの意見も出されました。

地域と研究者が協力する

「市民科学」

今回の研究の特徴は、「市民科学（シチズンサイエンス）」という考え方にあります。

市民科学とは、研究者だけでなく地域住民も研究に参加し、現場で培われた経験や知識を研究に生かしていく取り組みです。野生動物問題は、研究室のなかだけでは解決できません。農家や地域住民、狩猟や有害鳥獣捕獲に携わる方々、森林管理の関係者など、多くの方々の経験が重要な役割を果たします。

宮下博士はこれまでヨーロッパ各国で、市民と研究者が協力して野生動物問題に取り組む研究を進めてきました。今回の調査も、その考え方に基づくものです。



スペイン国際農業機関にて

世界で活躍する二人の研究者

宮下博士は飯田市出身、飯田高校理数科を卒業後、東京農工大学へ進学。ドイツ・ベルリンのフンボルト大学で農学博士号を取得し、現在は東京農工大学准教授として研究・教育に携わっています。



左がカスパー博士、右が宮下博士

また、オックスフォード大学やドイツの研究機関でも研究活動을続けており、国際自然保護連合（IUCN）の専門委員も務めるなど、世界的に活躍する研究者です。

今回同行されたカタリーナ・カスパー博士はドイツ出身で、現在はポーランド科学アカデミー哺乳類研究所の博士研究員です。

オオカミをはじめとする大型野生動物と人間社会との関係を研究しており、「人間という超捕食者をオオカミも恐れている」という研究成果が国際的な注目を集めています。

村内各地で現地調査を実施

調査では、清内路、伍和、浪合の各地区をはじめ、ジビエ加工所、NPO法人あち森、飯伊森林組合西部支所などを訪問しました。

農業被害の状況、防護柵の設置と維持管理、サルやクマへの対応、ジビエ活用、森林管理などについて、現地視察と聞き取り調査が行われました。

研究者のお二人は、農家や地域住民、猟友会、森林組合職員など、多くの関係者から直接話を聞き、現場での取り組みを熱心に記録していました。

また、5月20日にはコミュニティ館で講演会「森と野生動物とどう共存していくか?」をヨーロッパと日本の比較」を開催し、多くの方にご参加いただきました。

子どもたちとの交流

調査初日には清内路小学校を訪問し、子どもたちとの交流が行われました。

懇談中は少し緊張した様子だった子どもたちですが、終了後には博士たちを囲み、次々と質問を投げかけていました。

世界で活躍する研究者と直接話す機会は決して多くありません。子どもたちにとっても、自分たちが暮らす地域の自然や野生動物について考える貴重な経験になったのではないかと思います。



清内路小学校での様子

現場で感じたこと

調査に同行させていただき、多くの学びがありました。

特に印象的だったのは、クマ対策についての考え方です。

クマを麻酔で眠らせ山へ戻す方法ですが、研究者や現場でク

マと向き合っている方々からは、「なぜクマが里へ出てきたのか」という原因を考えなければ根本的な解決にはならないとの意見がありました。

クマにとっても、山から離れなければならなかった理由があるかもしれません。その背景を理解しないまま移動させても、問題が繰り返される可能性があります。

また、今回の調査を通じて、阿智村には優れた獣害対策の取り組みが数多く存在する一方、それらが十分共有されていないことも感じました。

地域ごとの工夫や経験を共有することで、さらに効果的な対策につながる可能性があります。さらに、ドイツ出身のカスパー博士との交流を通じて、文化や生活習慣は異なっても、自然を大切にしたいという思いには共通する部分が多いことも実感しました。

研究成果を地域へ還元

今回の調査は研究の出発点です。



村内での現地調査の様子

宮下博士は調査終了後、「どの現場でも村民の皆様が温かく迎えてくださり、惜しみなく経験や知識を共有してくださった」と感謝の言葉を寄せられました。また、今回得られた成果を国際的に発信するとともに、阿智村にも還元できる研究を進めていきたいとの考えを示されています。

阿智村で積み重ねられてきた獣害対策の経験は、国内だけでなく世界にとっても貴重な財産です。

今回の研究が、野生動物とのより良い共存の実現と、地域の取り組みを次世代へつなぐきっかけになることを期待しています。(最終ページに続きます)

おしえて! セイアくん! (仮)



今年は阿智村制70周年です! 昭和31年(1956年)に「会地村」「智里村」「伍和村」の3つの村が合併し、「阿智村」が発足されました。今年は70周年を記念してテレビ局とのタイアップや、星のナンバープレート発行、記念コンサート実施などイベントが盛りだくさんなので、ぜひみなさんも一緒に阿智村を盛り上げていきましょう!

このコーナーでは本誌中に出てくる用語について解説しています。本誌に出てくる用語以外でも、解説が必要なことがあれば、用語や条例なんでもご要望ください! それでは今回も一緒に用語の勉強をしていきましょう!

ページ	用語解説
2	★UIJターン就業・創業移住支援事業とは 長野県が行う都市部から地方へ移住し、就業・テレワーク・創業等を行う方に補助金を支給する事業
2	★二元代表制とは 知事や市町村長と議会議員の両方を住民が直接選挙で選ぶ仕組みのこと。執行機関(行政)と議決機関(議会)がともに住民の代表者となり、互いに抑制したり均衡したりすることにより健全な自治体運営が実現される
3	★こども未来戦略・加速化プランとは 若い世代の所得向上や全世代での子育て支援強化を目的とした少子化対策・子育て支援の抜本的拡充プランのこと
3	★国民健康保険税(国保税)とは 自営業やフリーランスなど他の健康保険に加入していない方が負担する地方税。加入者の医療費に充てられる
3	★標準保険料率とは 国や県が算出する保険料率の標準的な値のこと。これを基に各市町村は財政状況や減免措置を反映させ実際の保険料(税)率を決定する
4	★専決とは 本来議会で議決しなければいけない案件について、時間的に議会の招集を待てない場合に、村長が意思決定すること
5	★指定管理者(制度)とは 地方公共団体に代わって公の施設の管理を代行すること。多様化、高度化する住民のニーズへの効率的・効果的な対応を図り、住民サービスの向上。行政コストの縮減を図ることを目的とした制度
5	★請願とは 国や地方公共団体等に対して紹介議員を通じ意見や希望を文書で表明すること
7	★落札率とは 地方公共団体が発注する公共事業において、発注者が事前に設定した上限価格に対する実際の落札額の割合のこと。落札率が低い場合は競争が激しいことを示し、100%に近ければ予定価格に近い高値で落札されたことを意味する 例 上限額100万円の工事に対し落札額が80万円なら落札率80%
7	★要対策土とは トンネル掘削工事や建設工事などで発生する土砂の中で、ヒ素、フッ素、六価クロムなどの自然由来の重金属が基準値を超えて含まれている土のこと。放置すると環境リスクがある
11	★トレーラーハウスとは 車輪がついており、自動車でけん引することができる動く家のこと
11	★コミュニティシティ(構想)とは 共通の興味や目的を持つ人々が集まり、交流や生活を深めるための空間やまちづくりのこと
6	★広域二次交通とは 観光客の広域二次交通の実証実験のため、飯田市—阿智村—中津川市(馬籠宿)を運行バスで結ぶため飯田市と事務委託を交わします。地図は飯田駅→中津川駅を示しており、中津川駅→飯田駅は天龍峡を経由するルートです。 広域二次交通路線バス経路予定図

国際研究者から見た阿智村の魅力



研究者のお二人からの
お礼の言葉です!



宮下博士調査活動写真

(14 ページからの続きです)
5 日間にわたる調査では、多くの村民の皆様にご協力をいただきました。

農家の皆様、猟友会の皆様、森林組合職員の皆様、地域で獣害対策に取り組む皆様、行政関係者の皆様など、多くの方々が現場を案内し、日頃の経験や知識を共有してくださいました。

調査終了後、宮下絵夢フェリチタス博士からは、「農業、林業、森林管理、地域ベースでの獣害対策を現地で見ることができ、大変学びが多かった」との感想が寄せられました。

また、「それぞれが阿智村の一員として、地域の伝統や生活、仕事に誇りを持って取り組んでいると感じました」とも述べられています。

同行されたドイツ出身のカタリーナ・カスパー博士からも、阿智村への思いを込めたメッセージが届けられました。

カスパー博士は、「皆様の温かいおもてなしと、自然に対する敬意に満ちた姿勢は、今も私の心に深く刻まれています」と記しています。

さらに、「皆様を結びつけているのは、自然への強い意識だけでなく、変化に対して進歩的なアプローチを柔軟に受け入れる姿勢でもあります」と述べられました。

そして、「この地域は多様な視点と、豊かな文化的記憶の宝庫として際立っています」とも評価されています。

私たちにとって当たり前の風景や暮らしも、国際研究者の目には大きな魅力として映ったようです。

阿智村では、農業、林業、観光、伝統文化など、多くの人々

が自然と関わりながら暮らしています。その積み重ねが、今回の調査を通じてあらためて評価されたことは、私たちにとって大きな励みになるのではないのでしょうか。



カスパー博士調査活動写真

宮下博士とカスパー博士は、今回の調査を研究の第一歩と位置付けており、今後も阿智村を訪れながら研究を継続する予定です。

研究成果は、国際学会や学術論文として発表されるだけでなく、地域へ還元していただくことが約束されています。

ご協力いただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

(櫻井 芳一)

あとがき

梅雨の時期になりました。一年の季節の中で過ごしにくく体調を崩しやすい時期でもあると思います。地域の活動の中ではこの時期井水の草刈り作業などが取り組まれる時期でもありますが。管理作業がきちんと行われることにより、身近な安全安心な暮らしへとつながっているのではないかと思います。近くにも普段顔を合わせない住民の人と近況を話せる良い機会ではないのでしょうか。

私達の井水管理のエリアでは少数ですが「ミカワバイケイソウ」の群生しているところがあり、草刈り作業の時に花が咲くまで「残しておきまいか」ということで、40代50代の若い人たちと話をすることができました。その都度そんな話をしてきたこともあり「白い花が咲くやつだよな」と会話も進みほっこりする時間もありました。

これからの時期暑さには充分気をつけていただきたいと思います。決して無理なさらず、くれぐらいなら大丈夫が危険になります。しっかり水分補給してください。

(大嶋 正男)